



バーナード・リーチ「ガレナ釉筒描獅子文大皿」



バーナード・リーチ「鉄砂抜絵巡礼者文皿」



バーナード・リーチ「楽焼筒描葡萄文深鉢」



バーナード・リーチ「鉄絵魚文瓶」

る現在ですが、到達しえない尊厳、神聖な場所があることを、現代人は再認識が必要なこのごろではないでしょうか。

バーナード・リーチ

英国で美術を学んだリーチが幼少のころ過ごした日本で、エッチングを教え伝えようとしたが茶会で楽焼に魅了され陶芸を生涯の糧としたことはリーチ自身のみならず、日本の陶芸の将来に大きな影響を及ぼしました。

リーチはまず六代乾山のもとで修行し、自らの美学に根ざした新しい境地を開こうと試みました。柳宗悦との出会いはリーチにとって思想的に重大な結果となり、美学、宗教感に多大な影響を受け陶芸の美を近代以前の古き良き中国宋時代、韓国李朝時代の気品ある焼き物に、そしてすべての装飾と虚勢のないゆったりとした、日本の民芸に見いだしたのです。その活動は浜田庄司、河井寛次郎、棟方志功らに大きな影響を与え、以

降彼らはお互いに親交を深めていきます。

リーチは洋の東西を問わず、真美は自我を超えた無我の世界にあると感じ、晩年禅宗の円の思想にその原点を見いだしたのです。

リーチ曰く「形は造られるものではなく、生まれるものだ」。自らの思想、美学の表現手段を陶芸に求め東西共通の美意識をつくり広めたことははかり知れない功績といわざるをえないものです。

Information

所在地 〒527-0231 滋賀県東近江市山上町2068-2

電話 0748-27-1707

FAX 0748-27-1950

交通 名神八日市ICから車で約10分。近江鉄道「八日市」駅から近江バスで約35分「山上口」下車。

開館時間 午前11時～午後5時(6時閉館)

休館日 月曜日、木曜日、年末年始

入館料 500円(税込)
小・中学生は大人同伴の場合、無料



日登美美術館



日登美美術館は、大阪のメンズファッション商社日登美株式会社のオーナー画師禮三、清子夫妻が若いころから収集した美術品を、私蔵に終わらせず多くの人に見てもらいたいと、故郷滋賀県鈴鹿山麓の永源寺に1992年5月に開館したものです。

総面積は600m²と小振りながら展示室を大小3つの部屋に分け、大展示室で常設展示として、バーナード・リーチの作品を主体に、妻のジャネットをはじめ子ども、孫それに弟子たちにいたるまでを展示し、企画展は小展示室で歌川広重の浮世絵、棟方志功、ジョアン・ミロの版画を、ドームでは古代ガラス、中国古陶、ピカソの陶芸など6カ月単位で収蔵品をテーマ分けして展覧し、訪れる人が違和感なく鑑賞できるように、十分な配慮を施しております。

外観は積み木遊びでもしたような丸、三角、四角をうまくとりまぜ、レンガ色に塗った長方形を2階に突き出し、シルバーで塗り分け

たドーム、三角形を並べた大屋根と風変わりなデザインの美術館、21世紀になっても、通用する美術館をめざしています。

美術館の脇には、ワイン工場「ヒトミワイナリー」と「パンの匠ひとみ工房」があり、美術館ブランドのにごりワインとこだわりのフランスパンを製造販売しています。

創設者のことば

もう20数年も前になるだろうか、妻と2人でセントアイブスヘリーチを尋ねた時の記憶が今でも、鮮烈に残っています。リーチは日本人が来るとだれにでも話すそうだが、0の哲学を口角泡を飛ばして、語り始めました。「+は有限である。-も有限だ!+と-の間に位置する0こそ無限である。その0の無限の彼方に人間の真理がある」というのです。無学の私には十分理解できなかったのですが、日本の禅の思想であることだけは十分わかりました。

こんな素晴らしい哲学が東洋にある。君たちは灯台下暗しで、気がつかないだろうが、これを忘れてはいけないと繰り返し私たちに語りました。

それから数年経ち、リーチが亡くなってからだったと思いますが、オーストラリアの宇宙学者ホーキング博士をNHKの番組で見ている時、アナウンサーが「博士何億光年向こうのいまだ解明されていない彼方は何でしょうか」と尋ねたところ、博士は即座に間髪を入れず「ゴッド(神)だ!」と叫ぶがごとくいわれました。ああ!リーチと同じことをいっていると瞬間に思いました。リーチのいうところの人間の真理とは神・仏だ!この地球上の生物で人知の到達できないところを恐れ敬い神聖な場所であることが、人間のみが理解できるのだとわかりました。すなわち真の宗教心であることです。

文明の発達によりすべてが人間の力で解明されるような錯覚をす